UNICEFでの保健の仕事



UNICEF (国連児童基金) タンザニア国事務所 保健専門家

渋井優

2015年からUNICEF勤務。JPOとしてUNICEF東南アフリカ地域事務所に派遣。2018年より現職。

私は UNICEF タンザニア国事務所に て保健専門家として勤務しています。 2015年に JPO という日本の外務省の プログラムを通じてナイロビにある UNICEF 東南部アフリカ地域事務所に3 年間派遣をしていただき、その後タンザ ニア国事務所に現在のポストをいただき ました。現在の事務所に勤めてから2 年目が経過しようとしているところです。 やっと慣れ始めて日々定期的に起こる大 小さまざまな課題も自分でこなせるよう になったところで新型コロナウィルスの 拡大がアフリカでも始まりました。以降、 この新しいウィルスに対する緊急支援 (Emergency) と並行してもともと進め ていた開発系 (Development) を進める ことになり今に至っています。

現在の職務内容

JPO時代の3年間、地域事務所で東南アフリカ21か国の保健に関するデータやUNICEFの国事務所の保健に関するプログラムを包括的にモニタリングするチームに属した関係で、大規模サーベイや各種調査報告書を読み込みながら取りまとめる経験を積ませていただきました。その中で、診療所などの小規模な保健医療機関が集めるルーティーンデータが市区町村レベルの保健医療計画や予算編成の過程でさらに活用されるにはどうすれば良いのか、ということに関心を持つようになりました。幸運なことに私の関心ごととフィットするポストがタンザ

ニア国事務所であがったため、JPOの契約満了とともに移動するに至りました。

私の現在の職務内容は、大きく括ると 保健システム強化の分野のコーディネー ションです。保健部の部長のもとで、分 野横断的な医療情報システムの効率的な 統合・リンクに関わる各種ステークホル ダーのコーディネート、それら医療情報 システムが集めているデータを意思決定 に用いる文化と能力の構築に関連する事 業のマネージメント、そして大小さまざ まな UNICEF のプロジェクトに関連す る研究事業の取りまとめを国内外の研究 機関とともに行う調整役を担っています。 新型コロナウィルス感染症の拡大に伴う 緊急支援の基金が保健部門に集められた ため、そのグラント(資金)の管理・運 用も新しい仕事に加わっています。これ らに付随する新しいグラントのプロポー ザル(提案)の作成や、現行のプロジェ クトの進捗管理、レポート作成なども行 っています。一日の半分が会議(現在は ほとんど電話会議)、残りは資金・デー タ管理や何か文章を書くことに時間を割 いています。新型コロナウィルス感染症 拡大前は新規プロポーザル作成のための 基礎データ集めやカウンターパート(現 地中央政府高官や地域の医療施設の医療 従事者) の聞き取りのために遠隔地の医 療機関などに出向くことも多かったので すが、現在はもっぱら中央政府関係者と の電話会議が中心となっています。現地 の情報は現地 NGO などの協力をもとに

事業が継続されるよう工夫をしています。 伝統的に UNICEF では本部であって も国事務所であっても、母子保健、地域 保健、予防接種、HIV/AIDS などといっ たテーマに分けてユニットが形成されて おり、それぞれが異なるグラント(資金 源)を異なるドナー(資金提供者)から 頂き、それぞれが異なる政府のカウンタ ーパートと仕事をするという形態をとっ てきました。昨今では、この従来型のプ ロジェクト運営を続けていくことで得ら れるインパクトには限界があり、プロジ ェクト介入後のサービス提供や医療従事 者の技術の質の持続・継続を担保するた めにはサービスの提供の構造そのものを 作る、もしくは再構築する支援を現地政 府に対して行うべきではないかという論 が主流になっています。これが「保健シ ステム強化」と言われる分野が取り組む 課題です。UNICEF は設立当初より栄養 不良児の子供たちに高栄養食材を届ける こと、そして予防接種のワクチンの提供 をすることへの経験が豊富です。長年の 経験の蓄積により、同僚たちの間でも、 これらの分野は自分たちの十八番である との自負があると中に居ると感じます。 また、コミュニティーレベルのコミュニ ティーヘルスワーカーなどを活用した正 確な保健情報の提供や予防接種を受けて いない子供の特定(アウトリーチ)など の経験も豊富です。このようなうまくい った(いっている)事例を用いて、他の 基礎的サービスを継続的に現地の人々が



●地方の保健センターでデータ管理について、医師や看護師から聞き取りを行っている様子 ー現場の実践の実態をしっかり理解しておくことは、保健省政府高官たちとのディスカッションを机上の空論としないためにも、自分たちの進める政策やガイドラインが現場で実施可能かどうか自信を持つためにも大切で、時にはへき地にも赴きます。





②市町村レベルの保健医療管理チームとミーティングを行った際の写真です。プロジェクトを実施する自治体の保健医療管理チームとよい関係を構築することはとても大事で、彼らからUNICEFは現状を学び、UNICEFはその声を保健省政府高官たちに届けます。



- **③**UNICEFのチームです。職場の 廊下広場です。
- ◆こちらもUNICEFのチームです。 職場の玄関です。

独立して施行していく仕組みを構築する ことが私たちに課せられた課題なのだと 理解をして仕事に向き合っています。

新型コロナウィルス感染症 の影響

今年の新型コロナウィルス感染症への 対応を通じて、私たちの平時の仕事の重 要性を改めて実感する日々を過ごしてい ます。タンザニアの保健分野では開発援 助関係機関のコーディネーショングルー プがあり、主だった各国の援助機関 (JICA, DFID, USAID など) と国際機関 が定期的に情報交換をする仕組みがあり ます。新型コロナウィルス感染症対応時 も、現地政府との調整はこのコーディネ ーショングループが引き継ぎ、また、こ のグループのもとに各論のテクニカルグ ループが速やかに構成されました。私の ようなテクニカルレベルのスタッフでも、 このコーディネーションミーティングの 議論をもとに、WHOや USAID の同職 種のスタッフたちと日々やり取りをして 足並みを揃えています。タンザニア政府 は新型コロナウィルス感染症に特化した 対策をとることには消極的でしたが、保

健省の各部門の局長レベルの進言もあり、 このような緊急事態下における継続的な 基礎保健サービスの提供という文脈で質 の高い保健サービスの提供を継続的に行 うための医療機関におけるIPC (Infection Prevention and Control) や Triaging の能力・実施強化の試みが一 層強化されました。さらに、新型コロナ ウィルス感染症対策のために新規でいた だいた緊急支援の資金も効果的に使われ、 効果が長期的に継続するような仕組みが 構築できつつあります。タンザニアはも ともとエボラ出血熱の再燃の懸念が強く あった地域に属するため、IPC 関連の事 業を一層強化することにより、必要な物 資や能力研修は今後も支援を続けていく 必要があります。

将来グローバルヘルスを 目指す方へ

保健医療システムは国によって制度の 建付けやオペレーションの細かい部分の 違いはあれど、その背後にある基本とな っている考え方などは WHO などが示 すガイドラインや学術的なコンセプトが 基となっているので共通点が多いと感じ ます。現在どこでどのようなお仕事をな さっていていても、そこで培った経験や 知識は、今後どこに行くにしても生きる ものだ、という気持ちを持ち続けている ことは大切だと思います。

新型コロナウィルス感染症を通じて、公衆衛生の課題には国境はなく、各国が政治的な判断を通じて課題を解決しようとしていく様を目のあたりにしました。一つの国で起きていることはほかの国でも起こりうることだからこそ、経験やそこから得られた知見を共有することは国際機関の役目だと感じます。そのためには、やはり数字や理論を用いて事業を記録、継承する努力が必要だと痛感しています。

また、各国から提供を受けた資金をより効率的に運用し、最大限可能なインパクトを与えることを課せられた者として仕事をすることは責任感を伴いますし、なかなかストレスフルです。現地政府高官との交渉は胃が痛くなることもあります。異なる文化やスタイルの方々と仕事をすることになるので、柔軟性も持って、様々な変化を楽しめる方が向いている仕事なのかな、と思います。